

14<sup>th</sup> Ver. Feb 16<sup>th</sup> 2010

基幹運動推進委員会\_同朋運動研修会  
葬儀の変容と改革と  
Ver.14bis

滋賀教区基幹運動推進委員(組相談員)

滋賀組正覚寺愚住

堅田 玄宥

# 変容の本質

- これまで、葬儀の進め方について幾度か取り上げられてきたと言われる。
- しかし、これは、塩をまくなとか、茶碗を割るな等という葬儀式手順に掛る**注意事項**の次元ではない。
- 新たな課題は、**社会の変容**とこれに対応する**ビジネスモデル**の次元の問題である。
- 例) イオンによる葬儀社モデルの公開
- 無縁死→直葬の増加

## 変容の態様(葬儀社の主導による宗教活動の衰退)

高額華美の葬儀社主導葬儀の進展－不明瞭な葬儀料金という苦情

2009/9イオンによる葬儀社モデルの公開(それ自体はリーズナブル)

いずれにせよ、葬儀社  主導が放置されると

### 1. 高額祭壇料に戸惑うお同行の苦悩の声

親の葬儀にはできる限りの出費を厭わない遺族(喪主)の気持ちがあそばれ、唯単に葬儀社の経済モデルの餌食とされている現実に憤りと嘆きの声が聞こえます。お同行の経済生活に少なからぬ打撃を及ぼしてしまいます。

### 2. 地域原資が地域外に流出

葬儀屋の売上として消え去り、決して地縁の活性化に生かされることはありません。

### 3. 宗教費用が削減 寺院の宗教活動に打撃

地縁活性化の為の寺院の宗教活動に生かされることがありません(二重の損失)。

例)副導師、諷経(ふぎん)分の宗教費用がカット

(備考)大型店舗やコンビニの展開により地域の小売店が消失しているモデルと似通っています。

Ref)2010/2/1広がる食の砂漠:<http://www.nhk.or.jp/gendai/yotei.html>


# 葬儀社ホールを使用してきた現象の解析

葬儀社ホールがなぜよいと考えるのか


葬儀社が何から何までこうしたらよいと親切に説明してくれるとそうだと思ってしまう

自宅葬では親戚や隣組さんに関わって貰うのが煩わしい。 食事の問題もある

椅子式である。 冷暖房がある。 トイレ設備がある。 **広い駐車場がある。**

- 便利さを考えると**お金には替えられない**(Ref: 2010/2/13連研での **の方の意見**)
- →この考え方はバブル崩壊前の高度成長経済当時のロジックそのものである。地縁崩壊を顧みないばかりか、今や駐車場までの自動車運行は地球温暖化を促進する二酸化炭素を排出することを忘れてはならない。現象の特徴を  考えてみましょう

この現象は大型店舗やコンビニの展開により地域の小売店が消失しているモデルと似通っている

- コンビニができて地元の商店が潰れた為、お年寄りが買物に行けない。
  - Ref) 2010/2/1 広がる食の砂漠: <http://www.nhk.or.jp/gendai/yotei.html>
  - 葬儀社ホールでの葬儀になるとお年寄りが葬儀社ホールへ運べない
  - 車に乗れない。送迎車には限りがある。乗るのに不自由である。
- お年寄りの参加を  大切にしたい。

地元寺院での葬儀を営んでほしい。これが 地区の皆様の**温かいお心**である。

- の皆様には**地縁を大切にしたい**という**温かい心**が欠落しているのでは？
- では総代様が全ご門徒さんのアンケートを元に住職にお願いされて実施された経緯がある。むしろ、問題意識は総代様方にある。

## 変容の態様 (無縁社会の進展による直葬の増加)

無縁社会の進展 孤独死の増大 直葬(無縁葬送)の増加  
自殺者数年間3万人超連続12年 自殺率が先進国中ワースト2位  
国の統計上カテゴライズされない新たな死の急増

無縁死が2008年1年で32,000人(全国1783の自治体調べ)

- 身元不明の自殺とみられる死者、行き倒れ死(孤独死)  
(これを行旅死亡人という)が年間1,000人近くに上る。
- 仮令、身元が判っても、家や名字が異なる為、お墓に入れない。
- 病院の検体番号の入った箱が逝き場所。

(原因) 嘗て日本社会を紡いできた「地縁」「血縁」の喪失 

- 終身雇用制度の崩壊に伴う会社の繋がり「社縁」の喪失 

人生末期の不条理  への対応

特殊清掃業・死後の身辺整理や埋葬等の専門業者

NPO・死後の葬儀や納骨、遺品契約の為の生前契約

無縁死直葬の遺骨のみを引き取り読経するお寺、例)高岡の大法寺

# 文化人類学的に見た課題

- 人間社会を歴史的文化的に紡いできた地縁、血縁は、重要な社会的なインフラであり、国家・国民を支えるセーフティ・ネットである。例) 孤独死から人々を支える。
- かかるインフラは都会や新興住宅街に未発達であり、田舎には伝統の歴史があった。
- 精神的文化的には、お聴聞をエンジンとするお同行の営み、講は、本願寺教団を支えてきたインフラである。
- 都会に発達し、90年来以降、田舎にまで入り込んで、「**葬儀費用積立コース**」を駆使して地域住民を囲い込み、葬儀に際しては、「**葬儀祭壇ランク**」を示して人々の虚栄をくすぐり高額祭壇を売り込む葬儀社の「**経済モデル**」は、地縁を揺るがす重大な反社会的営みの疑いがある。

## 自宅でも葬儀社の祭壇を組むようになった背景

### 1. 自宅で葬儀社の祭壇を組むようになった理由を考えてみる。

昔は、地元の僧俗が一体となって素朴な葬儀祭壇を組んだが、葬儀社が入りこんで以来、相当年数が経過し、既にその習俗が途絶えてしまった。

葬儀社と葬祭費用の会員契約を結んでいる。

葬儀社の「葬祭費用積立コース」で積み立てており、葬祭費用以外に使いようがない。

葬儀社が払い込んだ葬祭費用の解約に応じてくれない。

このこと自体不正競争防止法その他関連法違背の疑いがある。

葬儀社ホールを使用するのとほぼ同額で自宅で祭壇を組むことができる(両者に差がないと葬儀社は説明する)。

葬儀社の祭壇モデルが、水車飾り、門前看板等とセットになっているとの葬儀社の説明を聞かされて、祭壇設定に自由度がなく不要な要素をカットできないのだとあってしまった。

# 寺院を会場にしてこなかった背景

1. 実は、ご要望により寺院を式場にしていた。

どのような場合に、寺院を式場にしていたか

故人の顔が広く、自宅葬では賄えない。

だからと云って、お寺の総代等の重鎮であり、葬儀社ホールを使用することは似つかわしくないという誇りが大きな理由である。

2. 寺院を式場とする発想がなかった理由

自宅葬が一般常識である背景下で、ご門徒の立場からすると

寺院から式場に利用してよいとの案内がなかったのが一番の理由

葬儀社が商売上手であるにしても何から何まで親切に説明してくれるのとの対比の上で言えば、お寺からは日頃から親切に案内があるわけではないからである。


寺院は神聖な場所だから「葬儀式場に使用してはならない」とご住職に反対されたことがネックになっている。

(考察) 住職や坊守の葬儀を本堂で営んでもご門徒の葬儀が営めないとする、これは立派な差別ではないのか？(日頃は同朋運動で部落差別反対を声高に叫んでいるのとの対比上)。



# 葬儀社S主導の祭壇ランク

## 見栄と経済的理由

- 葬儀社S主導(会員として積み立てている背景)により
- 葬儀社Sは冠婚葬祭向に¥50万/30万円の積立方式
- 積立額は、Pコース¥2500円/月(年額¥3万円)、
- Rコース¥1500円/月(年額¥1.8万円)、
- 祭壇は¥25万円～¥140万円?までの5ランクより選択
- 会員は2割引←祭壇価格設定権限は葬儀社Sにあり  
2割カットは、非会員と対比してのプライオリティにすぎない。
- 5ランクの祭壇写真を見せられれば見栄により高額の祭壇を選択しがちである←葬儀社の拝金主義に乗せられている結果である。
- (祭壇選択が最初であり、法中招待が後になる)  
その結果、 経済的余裕がなくなり
- 法中の法礼をカットしていかにも寂しい葬儀となる。

# 葬儀社の構造と問題点

- 日本経済は、高度成長経済のバブルが崩壊し、既に是に対応する正規の努力を重ねているというのに
- 一人葬儀社だけが、葬儀の画一的な大量生産が看過されている。

(その問題点)



葬儀の華美化(拝物・拝金主義の野放し)

地域活動原資の葬儀社への流出。

→地縁を育てる寺院の宗教活動原資に反映できない。

地域経済の沈滞化

地域コミュニティの崩壊

# イオンの葬儀祭壇モデルと料金の透明化

どれかを選ぶことは、ランクで差別する商魂に乗せられているのでは

• <http://www.aeonretail.jp/aeonlife/expense/index.html>

A : ￥148万円、B : ￥108万円、C : ￥80万円



D : ￥60万円、E : ￥40万円、F : ￥30万円

だけど、本当に白木の祭壇は必要なのだろうか？

# 祭壇装飾の性格

- B, C, D, E, Fランクは、白木枠組みを中心とした装飾祭壇である。宗派横断的な葬儀に適用させるためのものであり、寧ろ、仏教の葬儀には馴染まず不要だと云って差支えがない。
- 面白いことに、Aランクには、白木枠組みがない。社葬等の規模の大きな葬儀に適用できないからであり、生花祭壇によって成り立つ。

これがヒントになる。

- 白木枠組みを必要とせず、自由な規模・スタイルで生花祭壇を組むのが寺院での葬儀での祭壇のイメージとなる。

# 白菊の生花壇にすればよい。



- 基本的に白菊、生花壇にすれば、白木の枠組み等は不要、例えば、¥30万円程度を標準に、それ以下も可能( )

# 生花壇の試算モデル

## 白菊生花壇試算モデル

仮に、幅二畳で一段30本、6段の白菊祭壇を想定して  
また、やや上等の白菊を使用するとしても、白菊生花壇が  
それほど多額には上がりません。

- 白菊原価： $30\text{本} \times 6\text{段} \times \text{¥}200\text{円/本} = \text{¥}36,000\text{円}$
- 後は、花屋さんの設備使用費、生花・資材運搬費、出張作業費等の実費を花屋さんの業務を損なわないように配慮します。
- 結果的に極めてもっともな費用に収まることは明らかです。


# 寺院を会場にする場合

(特徴・効果)

葬儀社の祭壇である**白木枠組み**は使用する必要がない。

→**花祭壇**を利用すれば**祭壇価格**を大幅削減できる。

**式場使用料**を大幅削減できる。

結果的に 

**葬儀費用**が大幅削減できる。

**式場使用料**は、本堂会計に充当できる。

→**厳しい本堂会計**を支えることができる。

ご法中も全員をご招待できる。

→ご法礼は寺院の**宗教活動原資**として有効に活用される。

地域の皆様にもお見送りに参加して戴ける。

# 組内寺院のお取り組み

(Ref: 2010/2/13ご住職からのお電話ヒアリング、連研でのご意見)

例 「寺院を式場として下さい」との**お寺からのご案内**と実績がある

- 「皆さんがお建てになった本堂ですからどうぞお葬式の式場としてお使いになって下さい」とお寺からのご案内があり、
- 旧くからのご門徒のお宅がお使い戴いている。

例 「寺院を式場として欲しいと」の**ご門徒からの要望**と実績がある。

- 「お見送りに参加したい」とのお年寄りの声を大切にして、総代によるご門徒アンケートを踏まえて、ご住職と相談の上、一度実施された。

例 多目的に**会館建設**を含めて対応策協議を進めている。

- 寺院を式場とする葬儀をも含めて会館建設について協議中である。

例 **寺院運営の一環**として考えたいとのご門徒の考え方がある。

- 将来の世代のことを考えると、寺院本堂を式場として使用し、式場料を寺院運営会計の歳入扱いとすることに意義がある。



# 喪主になった場合に備えて

民営葬儀社を使うことの妥当性を評価しておくことが大事である

- ・イオンが葬儀モデルと料金を透明化したこと自体はリーズナブル

→ <http://www.aeonretail.jp/aeonlife/expense/index.html>

- ・しかし、大きなマージンを取り去って行く仕組みであることは疑いがない
- ・取りうる選択肢はそれだけではないことに目を開くべき  
公営葬儀の手順を知っているのだろうか。

例えば、大津市営葬儀は

→ <http://www.city.otsu.shiga.jp/www/contents/1007105408008/index.html>

寺院を葬儀式場とする長所を知っているだろうか

- ・寺院は、お同行が自らの手になる活動母体である。
- ・寺院を葬儀式場に設定し、公営の資財を駆使する途も開かれている。
- ・寺院を葬儀式場にするにより、原資の外部流出を防ぎ(内部蓄積を  
図り)、地縁を豊かにする活動に有効に反映できる。

# 寺院を葬儀式場とする葬儀を営みましょう

- 寺院は、仏様のみ教えをお聞かせに与るお聴聞の場です。
- お同行が何年何十年とお念仏のみ教えを聞いて来られた場です。
- 御本尊がいらっしゃいます。
- ご尊前で厳粛なご葬儀を営んでみてはいかががでしょう。
- 葬儀社モデルの白木の祭壇は無用です。
- 生花祭壇の基本モデルで費用はとても廉価です。
- 厳粛且つ勿体ない精神に生かされる葬儀を営んでみてはいかががでしょう。
- 葬儀社ホールの使用料に比べればはるかに廉価な式場料は、ご懇念として願い寺の本堂会計を自然に支えても戴けるのです。
- 厳粛且つ勿体ない葬儀を営んでみてはいかががでしょう。 [流れ 1](#)、  
[対比 2](#)

## 厳かな葬儀を営むために目指すべきこと

- 葬儀は、故人が今生の命を終えお浄土に往生なさる大切なプロセスです。
- このため、僧侶は、故人の浄土往生に相応しい宗教的荘厳さを保つことを何よりも大切にします。葬儀社が取り仕切り、僧侶が従となる葬儀ではこの点少なからぬ支障が生じ易く、ともすれば本来の荘厳さを保てないのが実情です。
- 僧侶は、葬儀式を責任を以て執行致します。それには葬儀社を窓口にするのではなく、葬儀のご相談の第一声を寺院にお掛け戴くことが大切です。
- 肉親の葬儀は、遺族が如来様のお慈悲に遇わせて戴き、お育てに与り、地縁を温めて戴く大切な機会でもあります。地縁は日本社会を支える大切なインフラであり、地域に住む一人一人が育て上げなければなりません。
- このため、僧侶は、通夜から満中陰に及ぶ大切な期間を、ご遺族お一人お一人に大切な仏縁を結んで戴き、如来様のお慈悲にお導き戴けるよう精進を続けております。

以上に照らして、この機会に僧侶側が襟を正すべきは次の通りです。

- 読経ばかりの葬式坊主と揶揄され、ご法話の一つにも熱心でないお寺様は困ったものだとの喪主からの少なからぬ批判は否定しようがないのです。
- 逆に、斯かる批判を反面教師に、僧侶としての使命感に目覚めるならば、既に期待される僧侶の姿に恵まれたと言えるのではないのでしょうか。

# 寺院葬儀から無縁社会の防波堤への展望

“いやあ、無用の出費をしなくて済みました”

これは、実際に本堂で葬儀を営まれた人の感想です。

今後は



一步進めて

葬儀運営のための役割分担があるといいですね。

例) 斎場への連絡係、花屋への注文、

看板、テント、受付、椅子等の外部設営、当日の司会、

市営葬儀、民間葬儀社は必要な範囲での下請け外注に留める。

組織運営のバリエイティ

- 仏壮、仏婦、門推の機能の一つとしてノウハウの蓄積。
- 単独寺院だけではなく、組内寺院相互の助け合いとして
- 式場は、本堂のみならず地区毎の集会所も想定範囲とする。
- **ライフデザインセンター**(門推の機能として、又はNPO)の立ち上げ
- 無縁社会 孤独死 直葬 無縁墓の防波堤を目指す。
- 自身の葬儀に対する希望「**ライフデザインノート**」の実施、生前契約。
- ノートに基づく「**お別れ会のデザイン**」( 連研の新たな課題)。
- 福祉施設訪問布教、ビハーラ活動、重篤時の**枕頭慰問**。
- **永代供養墓(共同墓)**に入る仲間の定期的ご法座。

# 僧侶は使命を忘れてはならない

(Ref上田紀行「がんばれ仏教！」p26) ←武内陶子さんの御主人

A) 祖父が亡くなった時初めて仏壇が入り、お寺さんと繋がりができた。

I) 来訪するようになった菩提寺の住職は、法事に来ても、ひらすら経を読むのみで、**肝心のご法話は全くしない**、短い言葉で**事務的なやりとりをするのみ**でそそくさと帰って行く。

ウ) **人間には全く関わらない宗教者、宗教者としてのオーラも宗教心も全く感じられない宗教者。**

I) この僧侶ではさすがに自分達夫婦は成仏できないと感じていて、死ぬまでには菩提寺を鞍替えしたいと著書に書いていらっしまった。

# ご法義中心のお聴聞の場の勧め

なぜ、祭壇が華美になるか

→棺の遺体葬に一つの原因があると考えられる。

骨葬(火葬後の葬儀)ならば本堂で祭壇を組む必要性が薄れる。  
その場合の葬儀プロセスは次のようになる。

通夜



お別れ式(ライフデザインに基づき身内等限られた範囲で)  
以て、創造的・個性的なお別れが営める。



火屋勤行



葬儀式(ご法義中心のお聴聞の場としてご法話を賜る)

# 骨葬の場合のお別れ会と葬儀式

第1部【 さんを送るお別れ会】午前9時～午前10時

開会：午前9時

帰三宝偈

表白：導師 寺住職

例)映像と音楽で故人との縁を顧みる

「故人or遺族のライフデザイン」を尊重して創作・設計

お別れの言葉(弔辞)、

弔電の奉読

みほとけにいだかれての斉唱

お焼香の後、生花で棺を彩り全員がお別れ

お礼の言葉 喪主

閉会：午前10時

従来、出棺までの時間の制約で  
十分な設計をする余地がなかつ  
たお別れ会の創造的・設計・執行

.....斎場への移動.....

火屋勤行

.....寺院への移動.....

第2部【 さんの葬儀式】午後1時～午後2時(ご法義中心の葬儀式)

お正信偈.....導師並びに法中は内陣で読経

ご法話(例えば、往相回向・還相回向のみ教えを頂戴する).....導師

# お聴聞中心の葬儀・中陰の営み

	読経	ご法話	ファイル
通夜	「お正信偈」故人との 最後のお夕じ	通夜布教	H22年1月6日_旧縦型_りびんぐら いぶず断章_通夜布教_五劫思惟章 _Ver3_100106
葬儀	出棺勤行(帰三宝偈) 葬場勤行(正信偈)	—	
火屋	火屋勤行 (重誓偈)	—	
還骨	還骨勤行 (往觀偈)	◆往相回向・還相回向 ◆みほとけにいだかれて	私がお浄土に還るとき_南無阿弥陀 仏_お父さん_100105_Ver14bis
初七日	三部経	1. 院号・法名のお話	091219_りびんぐらいぶず_初七日_ 院号法名の謂れ_Ver1
二七日	三部経	2. 今生から生死を超えた繋がり の切り替え	H22年2月第2号_旧縦型_りびんぐ らいぶず_及称名号_一念多念証文 _Ver.3_100110
三七日	三部経	3. 中陰は仏縁に遇う得難い機縁 であること	同上
四七日	三部経	4. 浄土真宗は名号による救い	同上
月忌	三部経	5. 如来が自らの存在を知らしめるし かけ	同上
五七日	三部経	6. 称名⇒聞名 (勅命の他に領解なし)	同上
六七日	三部経	7. 信心の構造	同上
満中陰	三部経	8. ご本願のお話	H22年2月第1号_悲しい筈の御葬 式が_第十八願文_Ver.1_100130



# (往相回向還相回向のご法話例) 私がお浄土に還るとき

私が如来様の思し召しに恵まれてお浄土に還(かえ)るとき  
打ち沈んだ嘆きの涙は欲しくはない。  
その姿を見ることができないとただ悲しんで欲しくはない。  
それじゃ、折角の私の浄土への誕生を邪魔するだけだからだ。

私が如来様の仰せにおまかせして今生を去りゆくとき  
さびしげな挽歌(ばんか)は歌って欲しくはない  
その声を聞くことができないとたださびしがって欲しくはない。  
それじゃ、私たちの初めての語り合いにふさわしくないからだ。

私のためには このような言葉は言って欲しくはない。  
お父さんのいのちの灯(ともしび)は消え、去って行ったと  
そうではなく、私のためには、ただこう言って欲しい。  
お父さんは今日お浄土に還り、浄土からの新たな仕事に旅立ったのだと

それでもふと、別れの涙があふれたら  
そっと、今日の日をそのままメモリアルに刻んで欲しい。  
私を惜しむことなく、共に過ごした日々をよろこんで欲しい。  
互いに顔を合わせていた日のおまえ達の声そのままに  
こんな風に言って欲しい「風が出た 素敵な船旅を」と

おまえの人生で、もしも不安げな嘆息が漏れるときは  
そっと、私の名を呼んで欲しい。「南無阿弥陀仏、お父さん」と  
その瞬間、私はもうすぐおまえのかたわらに居て、  
共に過ごした頃の元気な声そのままに  
こんな風に言うでしょう「私はここだよ、一人じゃないよ」と

# まとめ

1. 肉親の葬儀(人生の終焉)に臨んで、白木の枠組み祭壇ランクシステムを利用して一つを選ぶことは地縁を損なう反社会的行動の疑いがある。  
葬儀社の画一大量生産の経済モデルに与(くみ)することになる。  
華美に流れて、勿体ない精神に違背する。  
徒に虚栄をそそって、差別を助長する。  
地域コミュニティ参画が限られ、地縁を損なう。  
法中規模を縮小せしめ、葬儀の荘厳さを損なう。
2. 人間社会を歴史的文化的に紡いできた重要な社会的インフラであり、国民を支えるセーフティ・ネットたる地縁を育むためには、葬儀社主導の葬儀に押し流されてはならない。
3. 経済論理の葬儀からご法義中心の葬儀に改革すべきである。
4. 葬儀形体としては、遺体棺葬から骨葬に転換するのが理想的である。

# 無理のない取り組みと今後に向けて

寺院を葬儀式場とすることについての無理のない取り組み

当面、葬儀の営み方の選択肢( )の一つとしてご案内する。

自宅、寺院の本堂、葬儀社ホールの何れにするかは当面皆さんの自由意思に委ねる。

「本堂を葬儀式場として使用してもよいとお寺からの案内があると大変有り難い」とのお声に応えてのものである。

一方で、既に葬祭費用積立コースで相当額を積み立てており、諸般の事情に鑑み葬儀社ホールを利用したい方への配慮でもある

式場使用料を寺院会計の歳入とすることは寺院運営上意義がある。

今後に向けて

地縁を育み、葬儀を厳粛に営んで行くことが実は社会の大切なインフラであり、国民を支えるセーフティネットであるとの認識は大事である。

地縁を育むには、自らの年齢での判断ではなく、お年寄りへの配慮もおろそかにできないことを宿題として念頭においておく。

これを機会に、日本が抱える社会的課題に対して微力でも将来への対応策に取り組んでゆくべきである。

以上